

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

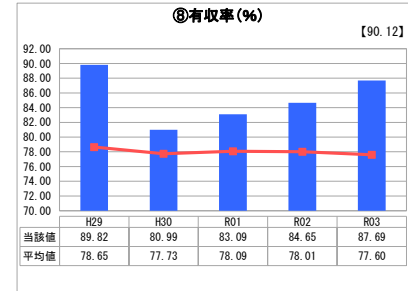
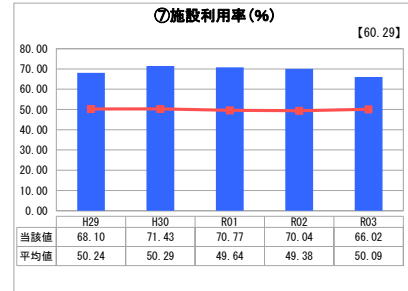
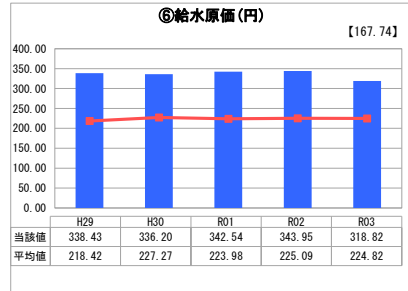
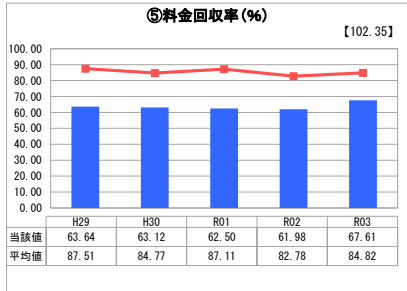
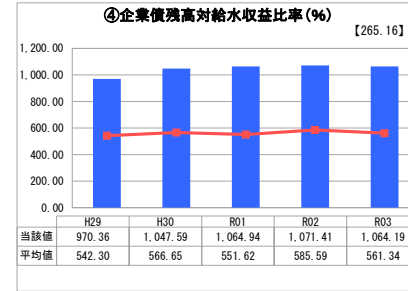
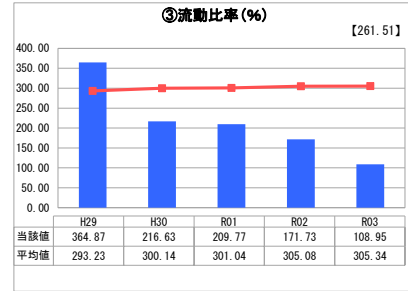
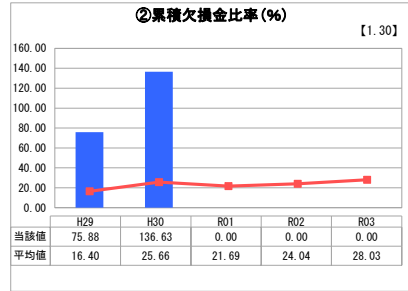
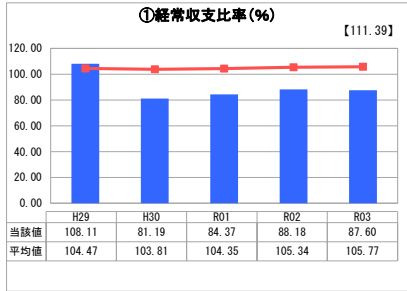
北海道 安平町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	52.31	88.55	4,590	

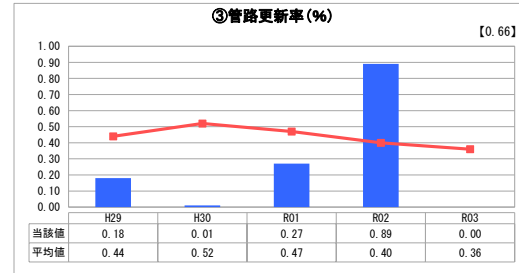
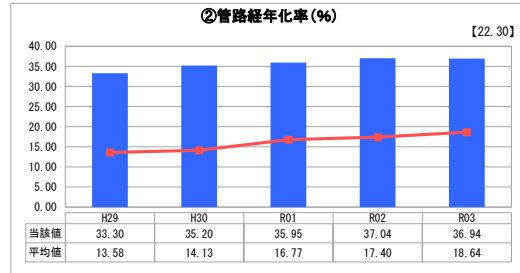
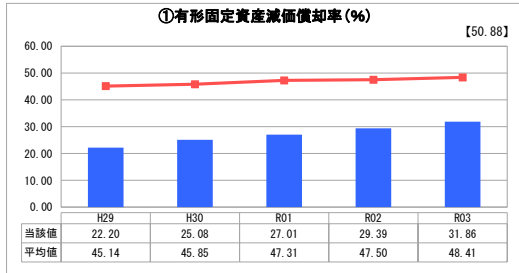
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,394	237.16	31.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,509	89.33	72.86

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を下回っており、給水収益および一般会計からの繰入金等の収益だけでは維持管理費を賄っていない状況にあります。当町においては市街地が分散していることもあり給水原価が類似団体に比べ割高となっております。これを料金収入のみで賄うことは困難であり、一般会計からの繰入れは必要不可欠な財源となります。現時点では基準内の繰入れのみを実施しておりますが、経営安定のために基準外の繰入れを検討しなければなりません。安平町水道ビジョンを平成28年に策定しておりますが、平成30年発生した北海道胆振東部地震の影響が大きく計画の見直しが必要となっております。また、震災によって漏水量が増大してはりましたが、漏水調査を実施することによって有収率が回復傾向にあります。管路や施設の耐震化を進めながら、施設の統廃合を含めた効率的な施設運営をしていくことで、各指標の改善に努めていきます。

### 2. 老朽化の状況について

管路の経年比率は高止まりしており、老朽化した管路も多く存在していることから震災が起因となる漏水事故が現在も発生しており、効果的な漏水調査の実施が重要となっています。漏水による損失と調査費用のバランスを考慮しながら漏水調査を実施し有収水量を上げていくように努めます。また、修繕および更新が必要な管路が年々増加していることから、優先順位を検討しながら更新作業(耐震化)を進めていきます。

### 全体総括

当町の水道事業は、地理的条件からも給水原価が割高となり管路の老朽化も著しい状況にあります。この状況に加えて震災の影響による漏水事故が現在も発生しております。多くの課題がある中ではありますが、将来的な水需要とそれに見合った供給能力のバランスをとりながら「安平町水道ビジョン」の見直しを進め、適正な施設配置による費用の抑制と資産管理を推進することで効率的な経営を目指します。